



今回協力隊は、築上町の特產品であるスイートコーンの収穫体験を行ってきました。湊地区の干拓地帯の一画に、堤功（つづみーいさお）さんの畑が広がっています。

無から有形財産を作つていくんやけね

農業は、何もない土壌から実りある作物を作つていくということ。

堤さんはこの道三十年の大ベテランで、スイートコーン生産のほか、レタスやお米も作っています。そんな堤さんの農業にかける想いを伺いました。

露地野菜は博打

*ちじばくち

この一言に衝撃を受けました。実際、区画変動、天候に左右される、資本金が沢山必要ななどの理由から新規就農の方は四、五年分の運転資金が必須。比較的安定して栽培ができるハウスマラコ栽培ではなく、あえて露地野菜を生産。本当にうまくいくかわからぬ博打のようなナリワイです。そんな露地栽培であつても、堤

さんが常に持っているハングリー精神、一緒に働いている方々との仲の良さ、長い年の経験から成功を収めていると学ぶことができました。

太陽の恵みやらね、この空気やらね、当たり前と思つたけどこれは本当にありがたいこと

出身は築上町ではないそうですが、築上町に對しての想いがとても熱い。そして農家さんであるからこそ気づける自然の恩恵。堤さんはまさに、私たちが学ぶべき『どんな場所でも生きる力』を持つていてる方の一

A photograph of four people in a cornfield. On the far left is a young woman in a white t-shirt and dark pants. Next to her is a young girl in a light brown t-shirt. In the center is an elderly man wearing a cap and a light-colored jacket over a shirt. To his right is another young man in a light gray t-shirt. Each person is holding a large, yellow ear of corn. The background is filled with tall green corn plants under a clear sky.



ユス
トイ
シート

築上町の特産品

VOL.4

手が「どう」、手が「届く」

手が「どう」、手が「届く」
協力隊が築上町の魅力を体験＆発信

地域を支える。

地域を支える。

暑い日射しが照る七月上旬。私たちは『メタセの杜』が始めた移動販売車の体験取材に赴きました。

五月から稼働している移動販売車。毎週火・木・金曜日に築上町内の地域を回って、食料品をメインとした生活必需品を運んでいます。

地域の高齢者にとって、買い物への負担を軽減することが目的

「足が悪い人とかもいるから。家の近くまで食品が来てくれば、ちょっとは楽になるよね」

そう話すのは『メタセの杜』の木村順弘（きむらへよ



メタセの杜 ・木村順弘さん

地域の人々の生活と交流に一役買う移動販売車は、まだ始まつたばかり。直接ふれあえる機会の場づくりは、私たち協力隊も大変勉強になる事業だと感じました。



りひろ)店長。車に乗らない乗れないといつた事情のあ
る人も気軽に訪れることができます。「自宅の目の前に停まってくれて助かるのかと笑顔で話す女性は毎週欠かさず利用していると言います。

お客様同士のコミュニケーションの場になつたら嬉しい

昨今はコロナ禍の影響で、外へ出ることが極端に減ってしまいました。特に高齢者層は地域における交流の場が閉じてしまったり、遠外出する機会がなくなつてしましました。そうした皆さんのために、コミュニケーションスペースとして使ってほしいと木村店長は語ります。

「久しぶりねとか、何してたの」「つてお客様たちが会話してる様子がいつも見られるんだよね。そういうのは嬉しいし、ちょっと買

地域の人々の生活と交流に一役買う移動販売車は、まだ始まつたばかり。直接ふれあえる機会の場づくりは、私たち協力隊も大変勉強になる事業だと感じました。

発行元

築上町役場 3階 まちづくり
築上町地域おこし協力隊
文.. 小俣元稀、斎藤愛
デザイン・編集.. 加藤詩乃



小俣 元稀



齐萨 爱



加藤詩乃

